

科目名	期間	単位数	曜日	時限	講師
バプテストの歴史と信仰	後期	2	木	2	片山 寛
<p><b>【テーマ】</b>            バプテスト教会の歴史的特徴は、ルターやカルヴァンのような偉大な先駆者によって始まったのではなく、名もない庶民によって始まったのだ、ということです。意図したことではありませんが、それはキリスト教会自身の始まりと一致しています。ペトロやヨハネといったガラヤの漁師たちから教会は始まったのであって、偉大なパウロからではありませんでした。そのことの意味を、ここでは講義をしながら皆さんと御一緒に考えたいと思います。</p>					
<p><b>【内容】</b>            バプテストの強さと同時に弱さとも言える庶民性について、教会の歴史の中でその先駆者を探して考察します。使徒ペトロ、ヨハネ、ペラギウス、ピエール・ヴァルド、トーマス・ラム、ジョン・ヴァンヤンなどの名前が浮かびます。            同時に、バプテスト教会の始まりについても、その歴史的事情を考えてみたいと思います。「バプテスト主義」は、このような「庶民の教会」の伝統を誠実に反映していると思います。</p>					
<p><b>【授業の進め方】</b>            毎回、私が準備するプリントを読み進めながら、ことがらを考えていきたいと思います。参加者も、一緒に考えるという仕方です。授業に参加して下さることを望みます。一方的な「授業」ということにはしたくないので、できるかぎり、出席や Zoom などによって参加して下さると助かります。無理は言えませんが。</p>					
<p><b>【教科書】</b>            教科書は定めません。毎回、私が準備して、事務局から送信される資料プリントが、教科書のかわりです。</p>					
<p><b>【参考書】</b>            1. 大西晴樹『イギリス革命のセクト運動』お茶の水書房 1995 年            2. 『資料・バプテストの信仰告白』斎藤剛毅編、ヨルダン社 1980 年            3. 斎藤剛毅『バプテスト教会の起源と問題』ヨルダン社 1996 年            4. フスト・ゴンサレス『キリスト教史』上下 新教出版社 2003 年</p>					
<p><b>【成績評価法】</b>            およそ3回の授業に一回、宿題レポートを課します。20×3=60 点            学期末にもう一度レポートを課します。40 点</p>					

科目名	期間	単位数	曜日	時限	講師
日本キリスト教史	年間	4	金	1	伊原幹治
<p><b>【テーマ】</b> 日本のキリスト教史を、日本史の中において、前後期(通年)で学びます。 私たちは歴史的存在であるので、信仰といえども、歴史と無関係に存在することはできません。自分が置かれた歴史(時代)環境の中で、その時代の人々はどのように自分の信仰を形成し、また、それを守ったのでしょうか。 長崎の潜伏キリシタン関係の遺跡が世界遺産に登録されて話題になりましたが、そこに秘められた歴史を、どれだけの人たちが知っているのでしょうか。弾圧や殉教よりも、生活の中で信仰を守り抜いた面に目を向けたいと思っています。 信仰歴が長くても、このような歴史を学ぶ機会はほとんどないというのが実情です。</p>					
<p><b>【内容】</b> 私たちは、前期はフランシスコ・ザビエルの来日から江戸幕府による禁教まで、主にカトリックの歴史を学ぶこととなります。ここではキリスト教が伝わり、江戸幕府によって禁止され、潜伏キリシタンの時代になり、キリスト教は歴史の表舞台からは消えてしまいます。その歴史を学びます。では、彼らは250年間も、どのようにして自分たちの信仰を守り、サンタ・マリアの像と神父を待つことができたのでしょうか。その組織構成や、彼らが大事にしたことは、現代の私たちにも大いに参考になると思います。 後期はプロテスタントが加わり、バプテストの宣教も始まりますが、これらは戦中には日本基督教団に統合されました。戦後になって私たちは、「信教の自由」を獲得します。特に、キリスト教は、戦前戦中の天皇制国家神道体制となぜ闘うことができなかったのかという重い課題を学びたいと考えています。 また、日本では、なぜキリスト教の受容が1%未満に止まっているのかという点についても考えたいと思います。 同時に、朝鮮(韓国)や中国のキリスト教史を併せて学ぶことで、そこから見えてくるものがあるのではないのでしょうか。日本との違いなども考えたいと思っています。</p>					
<p><b>【授業の進め方】</b> テキストを予め配布するので、読んでから参加してくださいと幸いです。 授業の最後に、出席・参加者からの質問に応じたいと思います。また、その他の皆さまからも質問を受け付けたいと思っています。 k-ihara@seinan.ed.jp で、メールを受け付けます。</p>					
<p><b>【教科書】</b> この授業では既存のテキストではなく、このために作成した独自のものを使用しています。それを事前に配布(価格は未定)する予定です。前後期、各1部で、計2部構成です。尚、テキストは前回は参考にして、毎年度改定をする予定です。</p>					
<p><b>【参考書】</b> テキストの各章の最後に、参考文献をあげています。</p>					
<p><b>【成績評価法】</b> 前期・後期で授業の内容に関して、興味を持ったことをレポート提出して頂き、それを元に評価します。</p>					

科目名	期間	単位数	曜日	時限	講師
教会管理特講	年間	4	金	2	城前和徳
<b>【テーマ】</b> 生きた教会形成を目指すための働きとしての教会管理のあり方を学ぶ。					
<b>【内容】</b> 時代に合った教会の活性化のために、牧師、主事・信徒リーダーとしての具体的な実務のあり方を、特に奉仕者の賜物を生かして、共に主に仕える業について研鑽します。 ・前期は「説教と牧会」(ボンヘッファー著)、牧会の項目をテキストとして学びます ・後期は「活力ある教会づくり」(教会形成シリーズ4)をテキストとして学びます。					
<b>【授業の進め方】</b> ・教会の出来事に照らし合わせ、共にバプテスト教会の牧師、主事、リーダーとしての在り方を具体的な事例を通して考察します。 ・教会形成に向けて、具体的に教会の現場で起こっている出来事を共々に発表しつつ、対話形式で進めます。					
<b>【教科書】</b> 1. 「説教と牧会」 ボンヘッファー著 新教出版社 森野善右衛門訳 2. 「活力ある教会づくり」教会の管理と運営 教会形成シリーズ4 発行 日本バプテスト連盟 著者 松見 俊・鳥山美恵					
<b>【参考書】</b> 1. 「教会管理ハンドブック」牧師と役員のために 著者 伊藤隆夫					
<b>【成績評価法】</b> 前期・後期レポート提出					

科目名	期間	単位数	曜日	時限	講師
礼拝学	年間	4	金	1	松見 俊
<p><b>【テーマ】</b>  礼拝学は、実践神学の一分野です。キリスト教の礼拝の聖書的基盤そして歴史的流れを踏まえて、何が礼拝の不変的構成要素か、何が可変的要素かを判断し、派遣された教会において主日礼拝を中心にして礼拝共同体を形成できる力を養うことを目的とします。教会の基本的務めである宣教（説教と教育）、癒やし、奉仕、交わり、牧会（司牧）、祈りは礼拝において統合的・総合的に形成されます。</p>					
<p><b>【内容】</b>  1. 礼拝とは何か、2. 礼拝の聖書的基盤、3. 礼拝の歴史的背景、4. 礼拝の神学、5. 礼拝の心理学、6. 礼拝、再生、世界、7. 共同体と礼拝、8. ポストモダニズムと礼拝、9. 礼拝における音楽、10. 礼拝における祈り、11. 礼拝における言葉によるコミュニケーション、12. 学習スタイルと礼拝、13. 子どもと礼拝、14. パプテスマと主の晩餐、15. 礼拝におけるその他の行為、16. シンボルの使い方、17. 建築と音響効果と礼拝、18. 教会暦および他の特別な日、19. 礼拝における芸術、20. 通過儀礼、21. 礼拝式順の計画、22. 礼拝を導く、23. 礼拝の変化への取り組み、24. その他</p>					
<p><b>【授業の進め方】</b>  教科書を予め読んできて、質疑応答を踏まえ、互いに議論します。</p>					
<p><b>【教科書】</b>  フランクリン・ゼグラ、ランドル・ブラッドリー『キリスト者の礼拝 神学と実際』（鳥山美恵、大谷レニー、松見俊訳）キリスト新聞社、2009年。翻訳者割で3000円。九州バプテスト神学校あるいは松見俊まで申し出て下されれば手に入ります。</p>					
<p><b>【参考書】</b>  越川弘英『今、礼拝を考える』キリスト新聞社、2004年、レイモンド・アバ『礼拝その本質と実際』（滝沢陽一訳）日本基督教団出版局、1961年、由木康『礼拝学概論』新教出版社、1961年</p>					
<p><b>【成績評価法】</b>  最初のクラスで渡す文献表の中から一つの文献を選び、80頁くらいを精読し、コメントを加えて、8000字前後のブックレポートを前期末までに提出すること。後期末にはクラス参加者が通う教会の礼拝式を分析、評価、検討したものを提出のこと。この2つの課題とクラス参加貢献度を加えて総合的に評価します。</p>					

科目名	期間	単位数	曜日	時限	講師
教会教育 B	後期	2	金	2	伊藤光雄
<b>【テーマ】</b> ・本授業では信徒(執事/役員)が牧師と共に教会という信仰共同体(群れ)を形成(伝道、牧会、組織)していくための必要な事項を具体的に取り上げて学びます。そして信徒(執事/役員)が牧師の良き協働者としての姿勢、在り方について学びます。					
<b>【内容】</b> (1)受講対象は、本授業を受講されていない方を対象とします。 (2)全13回の授業は、教会という現場(群れ)の具体的な取り組み、出来事(礼拝、祈禱会、教会学校、諸集会、諸活動等)からバプテスト教会の教会形成について学びます。 (3)受講生が所属する教会の取り組み、現況等を分かち合うことからバプテスト教会の教会形成について学びます。					
<b>【授業の進め方】</b> (1)毎回資料(プリント等)を用意し、それによって授業を進めます。 (2)授業は、できるだけ一方通行にならぬよう受講者との質疑応答等を通して教会形成の実践へとつなげていきたいと思えます。 (3)オンラインによる授業への参加を期待すると共に、通信による受講生は意見、質問等をメール等で積極的に参加されることを期待します。					
<b>【教科書】</b> 指定の教科書はありません。					
<b>【参考書】</b> (1)「教会生活入門―新・これだけは知っておこう―」(日本バプテスト連盟) (2)「執事/役員と牧師の協働」(日本バプテスト連盟宣教部編) (3)「今、バプテストを生きる―バプテストの教会形成の課題を共に考える―」 <div style="text-align: right;">(日本バプテスト連盟)</div>					
<b>【成績評価法】</b> ・レポートの提出によって総合評価をします。					